

4. ごみゼロワークショップ

ごみゼロワークショップ（北勢）

日 時：平成17年2月2日（水） 11:00～15:00

場 所：桑名市リサイクル推進施設 「クルクル工房」

参加者：県民17名、県8名

<内容>

○クルクル工房現地見学

桑名市のリサイクルの現状について学んでいただくため、桑名市リサイクル推進施設クルクル工房の見学を行いました。

また、桑名市職員から、クルクル工房の概要についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ4～5名程の4グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<クルクル工房見学>



<グループ別ワーキング>



A班

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か」

無味化する

企業の新製品
に分別は必要か？
ごみの中で分別が一番多いが、分別の便が改善される。

分別意識を高めた

分別意識を高めること
みんなの協力をまちがいをなくす
分別意識
ごみ発生量を減らす
家庭、事業者、地域

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか」

事業化運営
管理の協力

事業化への行動
資源回収の管理運営

ひとりひとりの方法を共有
府間連携（4-4-7）

アイデア

アイデアの提案
ケイタイの利用

服部茂樹
永井和志
木村正博
仲尾徹

物比事比（表）
便。

教育・PR

行政がPRをリードする
ガイドライン
マニュアル
地域へ迅速に情報提供
市民協会の協力を得る
情報誌
早くつくりたい

公平性の確保

ごみの有料化とごみ量の削減
お金で市民に返す
出しやすい方法
やりやすい方法

発生源の抑制

消費者はリサイクルを促す
システム化
事業化

分別作業の協力

分別マニアルをわたす
分別作業の協力
分別マニアル
決められた分別をすすめる（発生ゴミ）
資源ゴミの分別に協力してもらう

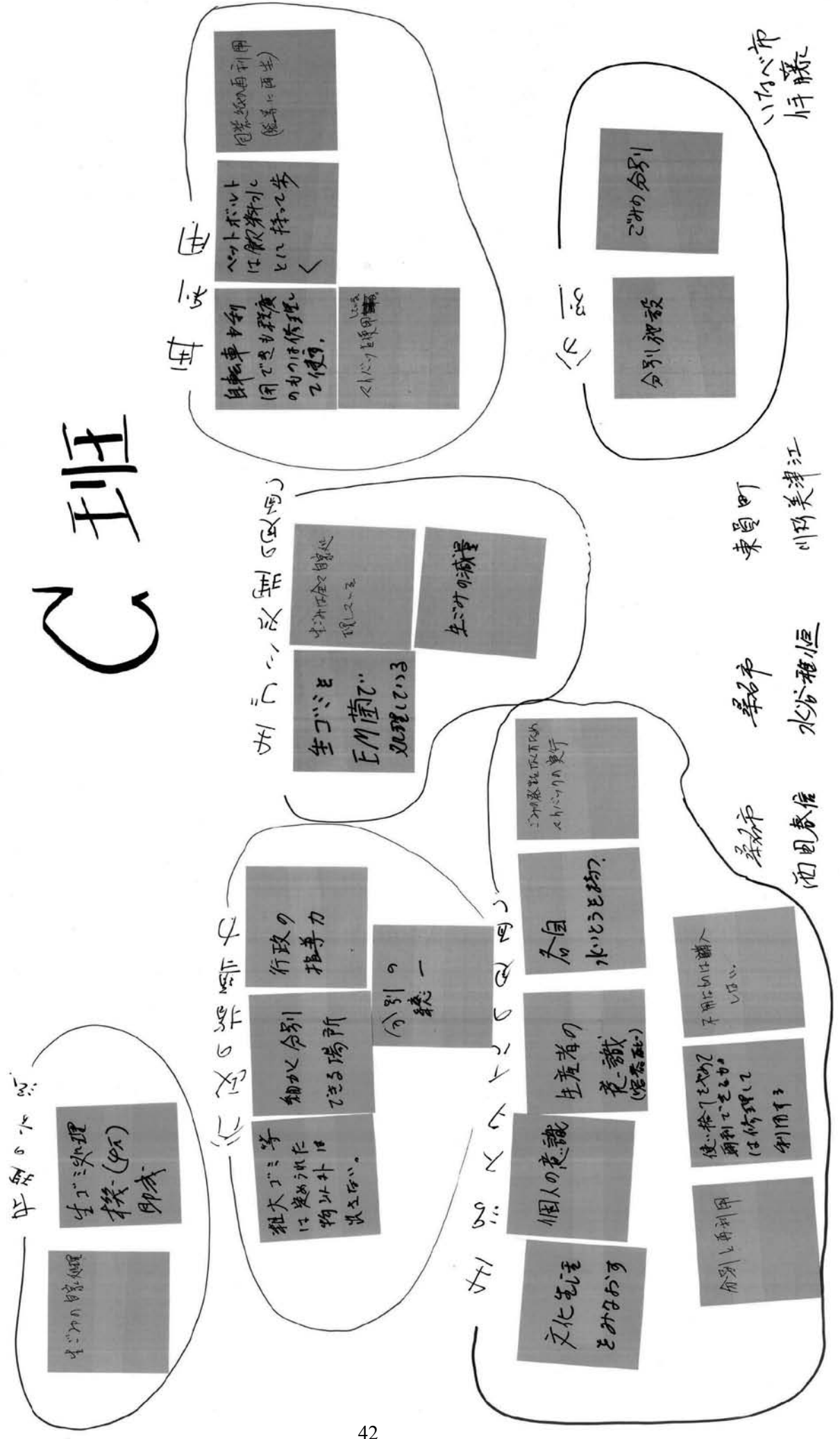
ゴミの増肥化

烟花の分別
生ゴミを堆肥に再製する
生ゴミケースの利用
生ゴミの堆肥化
生ゴミを土に還元
協同作業

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か」

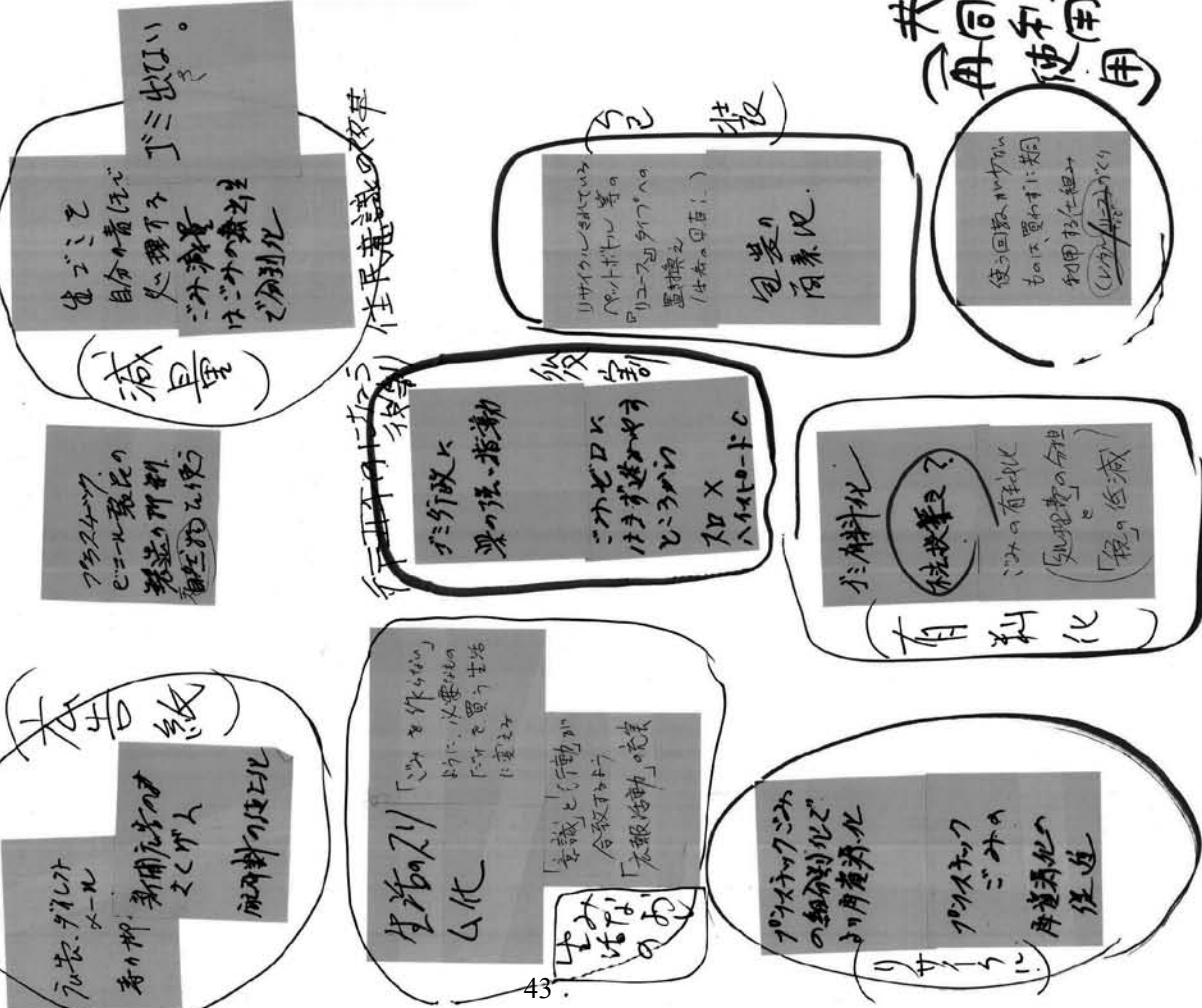
「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか」

U班

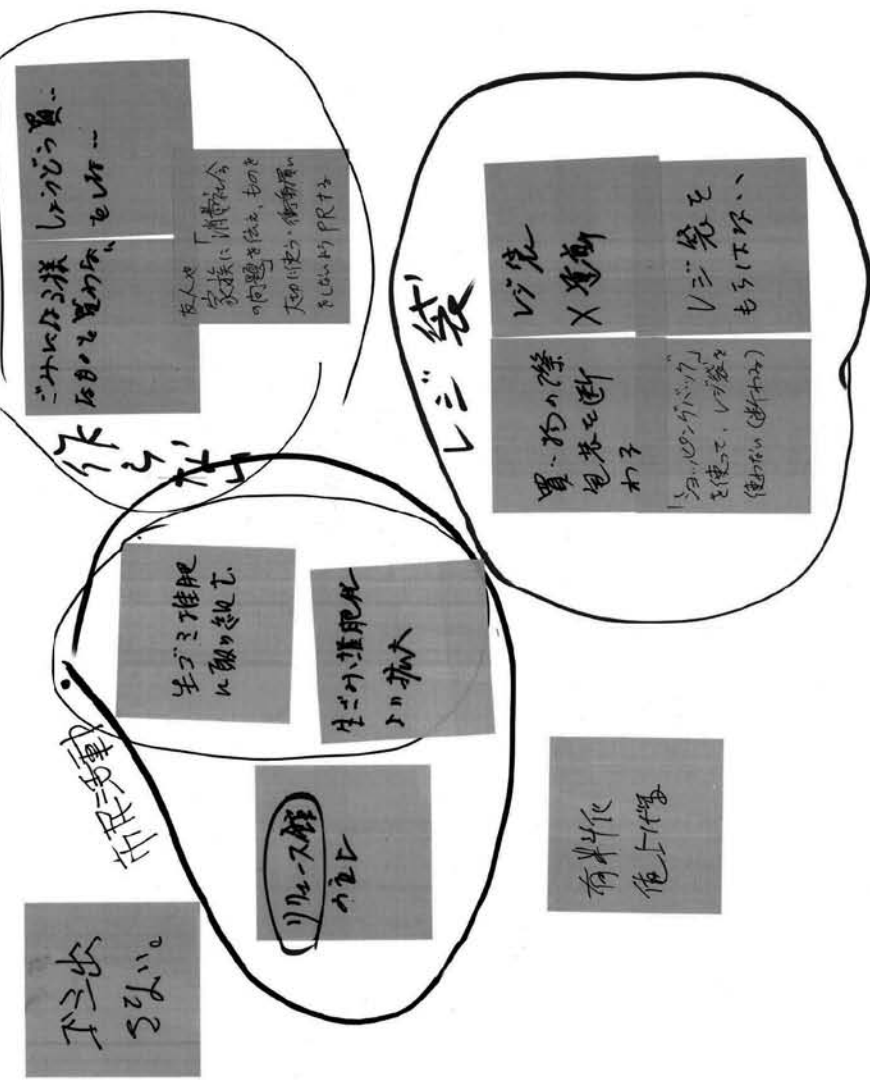


政策のスピードアップ!

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か」



「自分自身では何が出来るか、何をやってみてみたいか」



山崎川和

住民意識の向上!

「車の買い替え時期を遅くする」

「紙のゴミを減らす」

ごみゼロワークショップ（津）

日 時：平成17年1月22日（土） 10:00～15:00

場 所：アスト津 食工房

参加者：県民13名（小学5・6年生及び保護者）、環境学習情報センター2名、県5名

<内容>

○エコクッキング

講師：環境学習情報センター 環境学習推進員 矢口芳枝 氏

- ・ エコクッキングの説明 「エコクッキングって何？」
- ・ 料理の作り方の説明
- ・ 料理

4つのグループに分かれて、それぞれ役割分担をして調理しました。

野菜切り、パン切り、マヨネーズ作り etc

メニュー・・・3色オープンサンド（手作りマヨネーズ添え）

残り野菜で作るスープ

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「20年後こんな社会にしたいな！」

子ども1グループ、大人2グループの計3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、グループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<エコクッキング>



<グループ別ワーキング>



トイシノ事例

30年間、学校現場で
「トイシノ」の活動(学校)
にコミットし続ける
時間をつくってきた。

学校
学舎

コメンタリー

企業⇄環境教育⇄地域

家族

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動
「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

「トイシノ」は、学校現場から
社会へ広がる活動

鈴木文子
新井幸子
矢口芽枝
小塚洋子
吉田規子

戸井小学校
百保 帆内花

修成小学校
5-1 新井 杏奈

みんなの心を
つなぐために
心をこめて
お話を聞かせて
あげたいです。

いろいろな
お話を聞かせて
あげたいです。

みんなの心を
つなぐために
心をこめて
お話を聞かせて
あげたいです。

みんなの心を
つなぐために
心をこめて
お話を聞かせて
あげたいです。

みんなの心を
つなぐために
心をこめて
お話を聞かせて
あげたいです。



地球を守る

ゴミO社会花O目

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

ゴミを減らすには
ゴミを減らすには
ゴミを減らすには

附小

6-A 丸山 玲奈

女成小
5-1-3
谷口 実沙

カエル形
たいほう!!

南立誠小学校
6-2
堀内美寿

2015.1.22 (水)
南立誠小学校
6年2組
西口 あすか



ごみゼロワークショップ（南勢志摩・松阪）

日 時：平成17年1月22日（土） 9：45～16：00

場 所：ウェルサンピア伊勢

参加者：県民32名、市町村4名、県11名

<内容>

○基調講演及び意見交換会

テーマ：「ゼロ・ウェイストへの取組」

講 師：徳島県上勝町まちづくり推進課 松岡夏子 氏

※講演要旨、意見交換概要は次ページのとおり

○リフレッシュタイム

「童謡・唱歌を歌おう」

アコーディオン演奏 小山充 氏

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ8～9名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングの発表概要、まとめは別紙のとおり

<上勝町松岡氏講演>



<グループ別ワーキング>



講演「ゼロ・ウェイストへの取組」

—徳島県上勝町まちづくり推進課松岡夏子氏—

【講演の要旨】

○ 上勝町について

① 町の社会的自然的特性

- ・ 人口 2197人
- ・ 世帯数 862戸
- ・ 高齢者率 44.53%
- ・ 森林面積率 86.53%
- ・ 位置 県庁の南西約40km、徳島市から車で約1時間



上勝町の位置

② 「彩 (いろどり)」ビジネス

新たな地域の産業おこしとして成功している。地域の豊かな自然資源を、都市の飲食産業のニーズと上手く結びつけた。毎朝、その日売れる葉っぱの情報が住民に流され、それに応じる形で住民が葉っぱを収穫、市場にのせるという仕組み。



葉っぱをお金に換える



○ 徹底する34分別

- ・ 平成10年までは、各家庭での野焼きが一般的なごみ処理方法であった。
- ・ 34分別導入のきっかけは、平成10年に小型の焼却炉を2基導入したが、平成12年1月に施行されたダイオキシン対策特別措置法により、小型焼却炉が使えなくなったこと。
- ・ 町で対策を検討した結果、焼却方式からの脱却を目指すこととした。

上勝町資源分別方法

毎日の収集	
場所 日比谷谷コミステーション	収集時間 毎日午前7時30分から午後2時まで
<ul style="list-style-type: none"> ① プラスチック (PETボトル、PETボトル以外のプラスチック容器、プラスチック製容器包装) ② スチール缶 ③ スプレー缶 ④ 金属製キャップ ⑤ びん類 (清涼飲料水、ビール、酒) ⑥ その他のびん類 (醤油、みそ) ⑦ その他のガラス製容器 (食器、花瓶) ⑧ 陶器類 (お皿、お茶碗) ⑨ 陶器類 (お風呂、洗面器) ⑩ 陶器類 (お盆、お風呂敷) ⑪ 陶器類 (お風呂敷) ⑫ 陶器類 (お風呂敷) ⑬ 陶器類 (お風呂敷) ⑭ 陶器類 (お風呂敷) ⑮ 陶器類 (お風呂敷) ⑯ 陶器類 (お風呂敷) ⑰ 陶器類 (お風呂敷) ⑱ 陶器類 (お風呂敷) ⑲ 陶器類 (お風呂敷) ⑳ 陶器類 (お風呂敷) ㉑ 陶器類 (お風呂敷) ㉒ 陶器類 (お風呂敷) ㉓ 陶器類 (お風呂敷) ㉔ 陶器類 (お風呂敷) ㉕ 陶器類 (お風呂敷) ㉖ 陶器類 (お風呂敷) ㉗ 陶器類 (お風呂敷) ㉘ 陶器類 (お風呂敷) ㉙ 陶器類 (お風呂敷) ㉚ 陶器類 (お風呂敷) ㉛ 陶器類 (お風呂敷) ㉜ 陶器類 (お風呂敷) ㉝ 陶器類 (お風呂敷) ㉞ 陶器類 (お風呂敷) ㉟ 陶器類 (お風呂敷) ㊱ 陶器類 (お風呂敷) ㊲ 陶器類 (お風呂敷) ㊳ 陶器類 (お風呂敷) ㊴ 陶器類 (お風呂敷) ㊵ 陶器類 (お風呂敷) ㊶ 陶器類 (お風呂敷) ㊷ 陶器類 (お風呂敷) ㊸ 陶器類 (お風呂敷) ㊹ 陶器類 (お風呂敷) ㊺ 陶器類 (お風呂敷) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 資源物 (紙類、紙製容器包装) ② 資源物 (紙類、紙製容器包装) ③ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ④ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑤ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑥ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑦ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑧ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑨ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑩ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑪ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑫ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑬ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑭ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑮ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑯ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑰ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑱ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑲ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑳ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉑ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉒ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉓ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉔ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉕ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉖ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉗ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉘ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉙ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉚ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉛ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉜ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉝ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉞ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉟ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊱ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊲ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊳ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊴ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊵ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊶ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊷ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊸ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊹ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊺ 資源物 (紙類、紙製容器包装)

○ 生ごみ対策

町のごみ行政の成功の鍵は、生ごみを町の収集ステーションから完全にシャットアウトしていること。生ごみは基本的に次の方法で処理。

- ・コンポストによる堆肥化
- ・ごみナイス（乾燥式生ごみ処理機）
→約480世帯で導入済み。1戸当たり10,000円の自己負担。



コンポスト



ゴミナイス

○ 収集車の走らない町

- ・ 四国電力の廃施設を譲り受け、町の拠点回収施設「日比ヶ谷ステーション」を設置。行政は、ごみ収集をしないで、住民が自らごみをこのステーションに持ち込むという仕組み。ステーションでは、町職員が分別等の指導を行っている。
- ・ 町内の幹線（県道）沿いにあり、住民は、徳島市へ買い物に行く途中などに立ち寄るなどの形で利用している。
- ・ 34分別といっても、各家庭でそれだけのごみ箱を置くということではなく、家庭では自分たちが出しやすいように分けてごみを保管し、ステーションに持ち込んでから分別項目ごとのコンテナに分けて排出している。コンテナには、そのごみがどのようにリサイクル・処分するのかが示されている。
- ・ 家庭で不用になったが、まだ使えるものを置いておくスペースもあり、他の家庭で有効利用できるようになっている。
- ・ 私たちは今、声高に分別やリサイクルなど訴えかけているが、上勝町の高齢者の方はずっと前から、当たり前のようにごみを出さない（ごみが出にくい）暮らしを営んでいる。ごみを出さない生活文化、知恵が地域に根づいている。大切なことは、モノを大事にするといった気持ちである。



○ ステーション持ち込み方式のメリット・デメリット

【メリット】

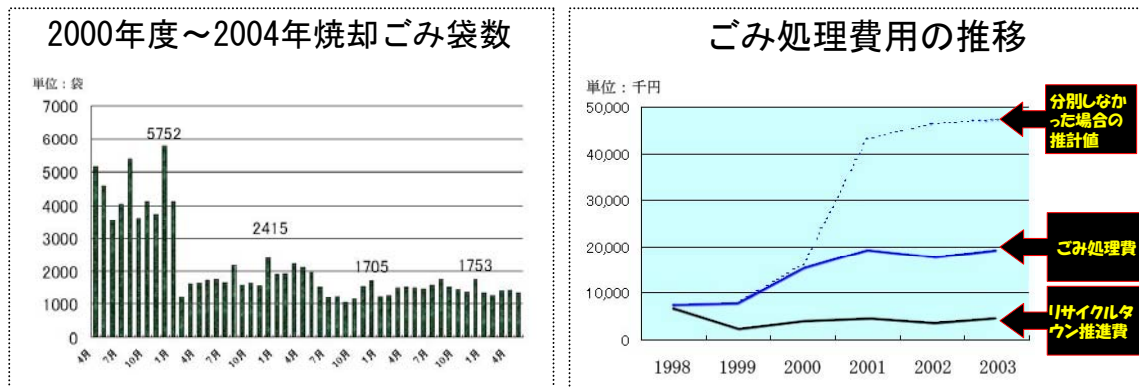
- 他人任せにならない。
- ステーションで分けることによる意識付けができる。
- 減量へのインセンティブが働く。

【デメリット】

- 町民、特に高齢者の方にとっては手間。経済的な負担もある。
→解消のために・・・、
 - ・ ボランティア団体「利再来上勝」が立ち上がり、支援している。
 - ・ シルバー人材センターによる有償でごみ収集を請け負うサービス（5袋で525円、一袋増えるごとに105円アップ）
- ・ 地域内での協力

○ ごみ処理システムの転換による成果

- 新たなシステム（2001年から導入）により焼却量は激減
- ごみ処理費用は、
 - ・ 従来のごみ処理システムを続けたとき→焼却委託により5万円弱
 - ・ 新たなシステムを導入した結果→増加傾向にはあるが2万円弱



○ ゼロ・ウェイスト宣言

平成15年9月に町として、「上勝町ゼロ・ウェイスト宣言」を行った。

- 1 地球を汚さない人づくりに努めます！
- 2 ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします！
- 3 地球環境をよくするため、世界中に多くの仲間をつくります！

→ 三点目については、東南アジアでは日本で不用になったパソコン等をリサイクルするため、子どもも含む多くの人々が劣悪な労働環境の中で働いている。日本の中だけでリサイクルを考えていてはいけない、といった趣旨のもとに盛り込まれた。

○ 平成15年度視察実績・・・194自治体、2103人

○ シルバー人材センターを活用した布団、座布団の再生利用・・・3年越しの夢

高齢者の方が、再生布団、再生座布団を作成し、500円で販売している。高齢者にとって、日々の生活の中での生き甲斐、やり甲斐のある仕事になっている。



○ 中学生による「GO美箱」バーゲン

毎月第4日曜日に、中学生が住民に提供してもらった不用品を販売している。作文コンクールで優秀賞をもらった中学生に話を聞くと、賞金で中学校の生徒と先生が全員産業廃棄物の不法投棄が問題になった香川県の豊島に勉強に行くとのこと。環境教育の大切さを実感した。



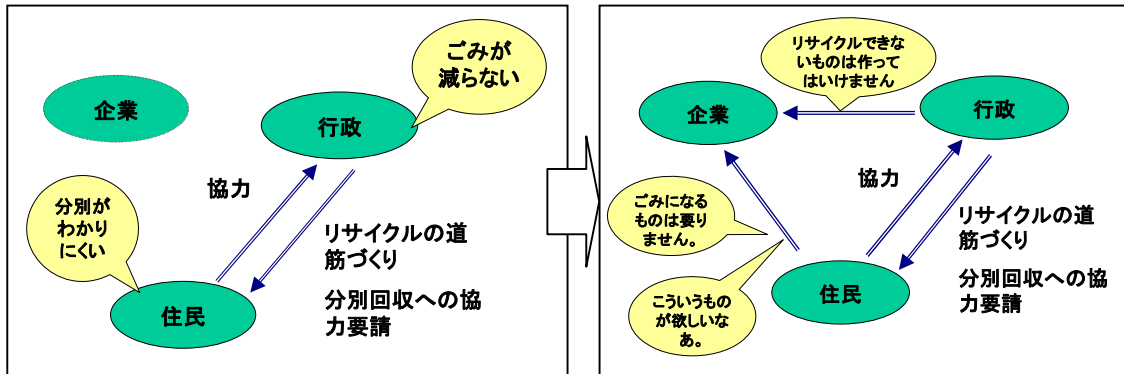
○ NPO法人ゼロ・ウェイトアカデミーの設立に向けて

町の取組により、焼却量は減ったが、資源にまわった分を合わせるとごみ自体は減っていない。

→ 今後は、ごみの量そのものの削減に取り組むことが必要。

→ 企業の経済活動の影響は大きい。企業に対しての働きかけ、生産者としての責任の徹底を求めていく必要がある。しかし、行政が率先してそうした働きかけを行うことについては、地域の経済・産業との関係もあり住民等の理解が得られにくい。

→ こうした課題に取り組むNPO法人の設立を進めている。



○ ゼロ・ウェイトアカデミーの展望

① ゼロ・ウェイト推進の普及・啓発

多くの市民・行政にゼロ・ウェイトを広げるためのイベントやツアーを実施する。

② ゼロ・ウェイトに関する調査研究

③ ゼロ・ウェイトスクールの設立・運営

ゼロ・ウェイトについて学びたい、環境を仕事にしたいという人の拠点づくり。

④ ゼロ・ウェイト商品の開発・普及

○ 推進のための方策

◆ ゼロ・ウェイト推進基金が上勝町に創設されました。

寄付の第1号は、中学校の卒業生2人。自分たちが環境の勉強をするために海外へ行きたいと思って貯めたお金を寄付してくれた。

◆ ゼロ・ウェイトアカデミーは会員を募集しています。

正会員 5000円/年(個人)

賛助会員 3000円/年(個人)

【意見交換の概要】

Q：廃油の処理はどうしているのか？

A：徳島市の業者に処理を依頼している。住民主体の団体による廃油を利用した石けんづくりなどの活動もある。

Q：デンマークに滞在されたがそうだが、向こうの状況はどうか？

A：デンマークに1年間滞在した。日本同様、ごみ政策は市町村によって異なる。滞した町では、ごみは2分別。「生ごみ」と「それ以外」に分けて袋に入れ、家の前のコンテナに出しておく行政が回収するという仕組み。生ごみは、生分解して熱を回収し、主に暖房に利用している。

生ごみ以外のごみは、高い費用で整備した施設で、分別センサーにより機械選別し、再利用している。

ごみ処理の実態としては、2分別ですら上手くいってなくて、いろいろな問題が起きていた。その結果、昨年5月にはシステムがストップしてしまった。

環境の取組について、ヨーロッパが手本にされることがあるが、必ずしもヨーロッパのやり方が良いというわけではない。重要なことは、地域に住む人たちが自分たちで、それぞれの地域に合った良いやり方を考え、責任を持ってやっていくことだろう。

良い例として、「佐那河内村」の職員の方が上勝町の取組に触発されたことがきっかけで、住民・地域主導での取組が展開されている。自分たちでやり方・システムを考え、責任を持って実行している。

Q：上勝町では価値観、生活様式がある程度均一であったことが、上手くいっている要因ではないか？

A：そんなことはない。最初は何回も地区の座談会をやって、それで合意が形成された。世代間の意識、ライフスタイルの違いははっきりとある。

Q：不法投棄についてはどうか？

A：不法投棄は減っていないが、34分別のために不法投棄が増えたとは捉えていない。そもそも「分別はしないとイケないもの」という考え方に立っている。デポジット制度とか考えている。

Q：生まれた地域との違いはどうか。

A：西宮市は町が分別するシステム。上勝町に来たとたんにごみ箱が増えた。

Q：コンポストでは虫がわくなど問題もあると思うがどんな対策はとっているのか？

A：住宅が密集していないなど地域性もあり、特に対策は必要となっていない。

Q：すぐ近くでも持っていない人がいる。

A：ポイント制を導入するなど考えてはどうか。

Q：家庭での生ごみ処理は、町として義務づけているのか？

A：義務づけてはいないが、ステーションでは受け入れていないため、自ら処理せざるを得ない。処理方法は、各家庭で選択している。

Q：松阪市では、地域マネジメント（地域内自治、地域のことは地域で考える）を進めようとしているが、どうすればよいか悩んでいる部分もあるようだ。ごみ処理の課題から波及するものとして、教育や福祉があり、さらにそれがコミュニティの再生などにつながっていくこともあると思うが？

A：ゼロ・ウェイストの発想から、せっかく身近に森林資源が豊富にあるのだから利用すべきだということになり、チップボイラーの燃料として利用するなどの取組が始まっている。ゼロ・ウェイストを進めることが、地域の自立、経済も含めた地域の豊か

さの向上につながっていくこともあると思う。

Q：上勝町は合併するのか？

A：現在のところ見送っている。

Q：ごみ処理費について、どこまで減らせると考えているか？

A：難しい問題であり、数値としては答えにくい。ごみを減らすためのポイントとして、容器包装ごみを減らすということがある。リターナブル製品の利用を進めることも必要。そのために、宅配サービスの仕組みを活用することも効果的ではないか。

Q：若い人の目をごみ問題に向けるためにはどうすればよいか？裾野を広げるにはどうすればよいか？

A：危機的な状況にならないと人は変わらないと思う。便利なものがあれば、多くの人はどうしてもそちらへ流れる。「デザイン」がキーワード。デザインの良さと環境負荷の少ない製品を結びつけていけば、若い人はそちらを選択するようになると思う。

Q：割り箸を分別収集しているが、何に使うのか？

A：パルプの原料にする。

Q：町が動いたきっかけは何か？

A：ダイオキシン対策により現実問題として、困ったことが起きたということ。それとトップの考え。

Q：高齢者の方が元気なようなので、山の手入れなどがなされていると思うが、町内の環境資源に対する取組はどうか？

A：山の荒廃は進んでいる。山に入ってもお金にならない時代。野生生物の対策なども必要になってきている。そうしたことからチップボイラーの取組なども始まった。都市との交流を通して自分たちの住む町の資源に気付かされるという部分もあると思う。

Q：上勝町に移り住んで良かったこと、悪かったことは？

A：空気水がきれい。交通が不便、アクセスが悪いこと。良いことの方が多い。日本の食文化の豊かさに気付かされた。

Q：企業として環境問題に取り組んでいるが、恒久的な取組にしていくことの難しさ、社内教育の難しさを感じている。

A：今後とも市民、行政、NPOと協力して取り組むことが必要である。

Q：町としてNPOの設立に取り組むというのはおもしろい。どのような経緯があったのか？

A：企業に対していろいろ働きかけていかなければならないと考えたが、拡大生産者責任の徹底を町として進めるのはおかしいという見方もあるって、NPO設立の発想が生まれた。

Q：粗大ごみの回収と処理は、どのようにしているのか？

A：町民がステーションに持ち込み、町職員1名、シルバー人材センター1名で金属類を選り分けるなどの処理している。受け入れは月1回日曜日である。

A+C

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

即実行

意識改革・教育

学校
地域
家庭
情報提供

政・有別
物
物する時
は下付
再利用出
物と大切に
使う事

ごみゼロを考へ
意識がムリ
とす。

消費者加
デザイン台「付録の
商品正有あり。

意識改革
ごみと出さ
分別す
(豊とロハフ)

県民の意識の啓蒙

ごみゼロと休業の
関係(富徳
(阿奈素任氏)

大人に相手
情報の提供
危機感もあが

教育の充実
子供
大人への啓蒙

子供連教育
かまへていく
学校を通した
ゴミゼロ教育

おまへてゴミを放
棄統制正教師
がゴミゼロ化をこま
め説明(承も啓蒙)

行動と情報提供
やります

ごみ(問題と
苦み)子供
ずり

ごみ(問題と
苦み)子供
ずり

リサイクルの美の
諸施設の整備

生ゴミ処理場の
外集積 22年

生ゴミとしてごみ
から(取)出す
買物料理 可取

ごみの減量
商品・包装・消費者

商品購入時の
不用品(商品が
包装)を少なく
する
包装の削減
買物の削減

社会システム改革
ごみを出さない製品
(包装)
リサイクル
(企業への規制)

話しかける商品
安く売る
→ 環境に優しい
商品の開発に努める

行政が
スーパー等の子
産前包装で
(回収)の体制
(回収)の体制

レジ袋を
無くす

不法投棄
をなくす

不法投棄の防止
取す

情報

花川敦子
大川了み
坂倉三
飯谷澄子
浜地宗三

実践

(行政と企業)
(行政と住民)
の協働

樋口迪雄
山崎靖男
結城正教
森村高幸

B班

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

排出抑制 リデュース

製造者から消費者まで段階で資源化を促す。製品はリサイクル可能なように設計する。消費者は、ごみ減量活動に参加し、ごみ分別を徹底する。

企業（製造者）の協力

リサイクルメーカーを減らす。毎年のリサイクル率を向上させる。

排出物は原則ゼロにする。資源化できないものは、ごみ焼却炉で燃焼処理する。

ムダなものは買わない

見直し（ムダなもの）

大野安通

浜口千尋 松本高明

理念

市民と行政の協力を高める

地域を愛する気持ち

市民と行政の協力を高める

地域を愛する気持ち

環境教育

学校だけでなく、生涯にわたる環境教育

子供には、せいたく（ほんのり）な教育を徹底する。

環境学習

環境を愛する気持ちを育てる。

環境学習

大泉千花

再資源化 リサイクル

ごみの分別と資源化

自治会単位での回収

資源化施設での処理

資源化施設での処理

再使用 リユース

再利用可能なものを活用

物と交換

物と交換

大野安通

浜口千尋 松本高明

井子口克利・小山 充

排出者責任

資源化できないものは焼却処理する。

地域コミュニティ

交流会
(ごみ捨て場)

坂倉小重子

7

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

教育・啓発

ゴミにあって
多くの人と話
をする

ゴミの人の生活
と、将来世代の
わが子孫とを、大
きくつなぐ人になる

ゴミについて
話しをする
（現在3人）

ゴミの仲間を
つくる

ゴミ分別について
勉強する
(再利用技術の
学び方?)

ゴミ問題と
普通の生活の中
とをどう
つなぐ

人の前で、ゴミ
ゼロは何で
行動を見せる
子供と一緒に
ゴミゼロを
活動に参加する

この活動も
応用して
能力を身につける

生ゴミ「ゼロ」を
職場で啓発

100%住民参加を目標として
最終目標を達成する

実践

自分自身の実践

少額のバーチャル
現金(物)は
使わない?

生ゴミを
ミニズと着脱

生ゴミの家庭での
コンポスト化

生ゴミの処理
たいは作(物)は
自分でやる
(生ゴミ...)

ゴミを減らす
お風呂の残り水
は、お風呂の残り水
で洗う

不要運搬
を減らす

1日1回は
ゴミの日

自販機を
使用しない

利便のみを
追求しない

不要品を
もとの買わない

ゴミの発生を
減らす

当面必要な
モノ以外は
購入しない

(物)
ものを大切に
使う

物を買った
理由を
考える

物を買った
理由を
考える

姿勢 (買いか)

マイバッグを
持つ

店頭購入に
あわせて
お茶、袋、箱
を減らす

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

生ゴミは
買わない

地球環境

太陽光発電
家庭に設置する

江戸時代の江戸
と比べて
どのくらい
環境が
いいか

自給自足の
生活

環境への
配慮
（川や湖など）

ごみゼロワークショップ（伊賀）

日 時：平成17年2月1日（火） 13:00～16:00

場 所：伊賀市青山公民館 中ホール

参加者：県民15名、伊賀環境問題研究会6名、環境学習情報センター3名、県6名

<内容>

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○いろいろな「生ごみ堆肥化の方法」の説明

（説明：伊賀環境問題研究会 会員）

バケツによるサンドイッチ方式での処理方法等の説明がありました。

○グループ別ワーキング

テーマ：「生ごみ減量化について」

- ①生ごみの堆肥化を始めたきっかけは？
- ②実際に行ってみて、「良かった点」「悪かった点」について
- ③生ごみ堆肥化の感想

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<生ごみ堆肥化の説明>



<グループ別ワーキング>



感想

楽な意見

この要約の
主眼をアクリル
にする。

満足

ハヤシ方式が
工場でも使われ
るようになり
嬉しい。

不満

農家の負担が
減るという点で
満足感がある
が、一方で
農家の負担が
減るという点
が、一方で

もっと広く知らせる!!

この取り組みが
もっと広範囲に
知られるように
努力したい。

努力している

多少臭い
肥料を作業
に使うのは
大変だが、
効果は大きい。

取り組み始めるとき、かけ

つなげよう!! 人の輪・和

個人での取り組み
を、チームで行い
ていく。

楽しんで

取り組む楽しさ
を伝えることが
大切だ。

"協力していきます。ゴミ減量"

ゴミ減量
の取り組みが
地域全体で
進んでいる。

良かった点

早期の取り組み
が、地域全体の
意識を高めた。

悪かった点

一部の農家は
まだ意識が
低い。

"苦勞してきます。ゴミ出しに"

ゴミ出しの
負担が増える
可能性がある。

1グループ

立松森福吉復古
田井永岡沢川

今更!!

チャンス!!

ハヤシ方式が
今年から新しい
取り組みとして
導入される。

ごみゼロワークショップ（紀北）

日 時：平成17年2月19日（土） 13:00～16:30

場 所：海山町リサイクルセンター

参加者：県民19名（内市町職員6名）、県4名

<内容>

○海山町リサイクルセンター視察

海山町のごみ処理の現状について学んでいただくため、海山町リサイクルセンター内にある、RDF施設、リサイクルセンターの視察を行いました。

また、海山町職員から、廃食用油リサイクルの取組状況についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<海山町リサイクルセンター見学>



<グループ別ワーキング>



(A班)

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

堀井 傳史

企業は「ごみに
なるものをつくらない！」

昔の様に
ばかり売りに
おはへまと思
ひは入ると思
う

経典の掬
を減らす
上流 元
断の様に
「使い捨て
を減らす」

過剰な
包装を
減らす

田中 順子

岡田 真

大事に使う

大切に捨てる
何度も使う
物を大事に
使う

平山 公子

企業は責任を持ってリサイクル

責任を担い
と責任は負わぬ

回収しぬ物は
売ってはいけません

ゴミ物
・国産
・廃材
・資源
・資源

バイツ野郎

考之消費者は

買う時
で「ごみ」
物を買
る

村上 誠

究極のリサイクル

この心で
燃かして
自然由来
で23%の
物を
の
ま
た
の
話
を
向
く

資源として
使えぬものは
資源として
使う

リサイクル
の
通
報
？

多岐の
障
害
ハ
ン
ド
レ
イ
ン
グ
ラ
フ

再
利
用
と
再
利
用
材
料
と
使
い
ま
す

リサイクル

リサイクル

分別

分別を
徹底する

人は分別
ゴミは分別
分別とイナ

関心
持つこと

ゴミに対する
小こころが
教育が必要

家族みんなで
話合おう

家族と
教育

赤

A班

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

青

ゴミを減らす

丸山 友樹

水谷 大介

いり物だけ
買う習慣を
つくる

ゴミが出ら
な物を買わな
い様にしたい

必要な物
を買う

ゴミの減量

生ごみは必ず
畑にあげて土に
生ごみを虫ごみ
(土に埋める)

まごみの肥料
にして再利用

食事は
使い切る

サランラップを
使わない。
(サランラップも使う)

本当にゴミか？
資源として
使えるものが？

ゴミの分別を
徹底する

ゴミを
分別する

分別を確実に

柳井 博史

再利用できるものは
資源として再利用

油を下水に
流さない

悪い洗剤
を使用しない

はた地は
せんじんに作り
使う

一歩 西 啓

松下 隆幸

濱中 静子

バイワ 野郎



B

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

消費者

企業の責任

- 企業・製造メーカーの責任を明確にした。
- 企業にも責任を押し付ける。

服部

教育機関

- 意識改革
- 意識をもつ (危機感)
- 地域での取り組み方を強化する。
- 市民へのPRを徹底する。
- 新しい時代の発展方法
- 子供の頃から環境教育

有米斗化

- 有料化
- 有料化の検討
- 不妊治療の拡大
- ゴミ袋が家庭使用分を決め、その分を減らしたら袋の有料化

石倉かつみ

安物買いの銭失い

- 必要以外の物を買わない
- 物も大切にしよう。
- 資源を有効に再利用を徹底させる。

上田

環境力

- 考えた事を実行する
- 個人でできることを実行していく。

心算

B

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

食

服部

東 雅人

コンビニ、スーパーで袋の品物を入れていますよね！

買った物の時、マイバックを持参する

レジ袋を省く

マイバックなど

子供への環境教育

町民にゴミの分別を促すPRをする。

家庭内での教育

教育・PR

自分自身リサイクルしできる物がどうか判断して買う。

リサイクル製品を買う

グリーン購入

再活用

リサイクル

必要以外の物は買わない。

押し入れ等整理し、1ヶ月分のみを買わせる。

必要最小限の物だけ買わない

不要なものは処分

整理整頓

石倉かつみ

生ゴミの堆肥化の徹底

自家庭のゴミ処理と行方。

生ゴミ処理機によるゴミの減量

生ゴミ

毎日の食事で食べ残しを減らし、余りな料理を作らない。

小本

上田

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

住民への意識啓蒙

地域住民への
丁寧な説明
意識改革

・誰が（説明）
・どこ（説明）
・なぜ（説明）

大規模な自治体
変革への最低限の
準備と計画

「ごみゼロ」を
やるべき理由
資源に乏しい

重層ゴミの多量
・資源化、減量化

有料化

吉田元元

分別の徹底

・分別がまだ
少ない

分別の種類
を増やす

リサイクルを
可能な環境に
する

植村正子

植村俊弘



植村俊弘

減量化

家庭から出る
ゴミは（出たゴミ）
減らさないと？
（調査の結果）

スーパーで買った
野菜をなるべく
持ち帰る

「再資源化」の
意味（リサイクル）
（リサイクル）
（リサイクル）
（リサイクル）

・リサイクル
（リサイクル）
（リサイクル）
（リサイクル）

環境教育

学校での
環境教育
（授業）

社会全体の
環境意識
（生活、消費）

植村俊弘

植村俊弘

植村俊弘

ごみゼロワークショップ（紀南）

日 時：平成17年1月23日（日） 12:30～17:00

場 所：県熊野庁舎 5階 第9会議室

参加者：県民12名、県8名

<内容>

○有馬不燃物処理場視察

熊野市のごみ処理の現状について学んでいただくため、有馬不燃物処理場内にある、生ごみ堆肥化施設等の視察を行いました。

また、熊野市職員から、廃食用油リサイクルの取組状況についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<生ごみ堆肥化施設見学>



<グループ別ワーキング>



「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

A

制度

データベース(容器)州会
制度を定めてやる。

リサイクルの
構造

生産者

生産者の責任の強化。

中央官庁と大手企業の
意識改革!!

ごみに苦しむ小規模企業に
つくばせ

啓発

緑の森、水、緑の森

(環境省) 緑の森、水、緑の森

環境省(水、緑の森)

環境省(水、緑の森)

環境省(水、緑の森)

環境教育

市民運動に
つなぐ

意識

個人(個人)の意識を高める。

個人(個人)の意識を高める。
個人(個人)の意識を高める。
個人(個人)の意識を高める。

自由責任。
自由責任は、自由責任。
自由責任は、自由責任。
自由責任は、自由責任。

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

ごみ処理の体制

ごみの有料化

ごみ処理の体制

再利用

不用品交換
再利用
再利用

ロゴジのリサイクル

リサイクル!

再利用
再利用

コストがかかる?
やるか?

作りの責任

企業責任の異化
ごみは違う
製品づくり

B

人の意識を高める

個人の意識を高める

地域での話し合い
(勉強会)

子供の時から教える

地区ごとの話し合い

モラル向上
↑
環境学習

一人一人の意識を高める

B

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

購入

環境に配慮した
製品を 買うこと

つめ替え
商品を買う

不必要な物
を買わない

3R 取組
~~Recycle~~
リユース 再使用
リデュース 削減抑制
リデュース 再資源化

生ごみの資源化
(堆肥)

ごみ分別
分別可成り

分別

排出

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

家庭での生ごみ処理

生ごみの処理状況

個人処理方法の確立

ごみに存在しない買わない

生産者の消費者の合意形成に過剰包装を減らす

ごみの回収
(ごみに回収できないものは回収しない)

ごみの分別

ごみの分別
分類別ごみの分別
分別ごみの回収率の向上
分別ごみの回収率の向上

ごみの資源化率を高める
→ 資源化率の向上

「ごみ」の定義を変えよう

環境教育

地域住民の教育
他市町村の取組の視察

環境教育
(学校でごみの削減を教える)

行政方針に反映させる
一人ひとりの意識を高める(環境教育)

環境教育
ごみ問題意識の醸成
・人づくり
・ネットワーキングを推進する

ごみ有料化

ごみを出した人に相応の負担をさせる
(ごみの有料化)

ごみ処理の有料化

ごみの有料化で削減する
→ 意識は高まる

ごみ処理の有料化
ごみ削減の先進国事例の調査に学ぶ

企業努力

① 1990年代以降の革新
・ 知識技術
・ 資材

廃棄物ゼロを目指す
100%リサイクル

行政の責任

① 資源化率の向上
情報公開(PR)
②

地域活動

ごみ削減の先行は地域の住民の活動
ごみ削減の先進国事例の調査に学ぶ
・ 婦人会
・ エコカープの普及

③ 地域コミュニティの向上

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

分別の徹底

① 回収日分別収集の徹底
 市町村に合った
 分別の徹底
 (授業への教育)

ものを大事に ごみになるものを買わない

また使えるモノを
 やたらと捨てない
 ② 壊れたものは修理が済む限り
 ③ 家の整理を怠らなくて
 必要最低限の消費
 モノを大切に
 長期使用が
 (減らす消費)

リサイクル品の推進

リサイクル商品の購入

① リサイクル商品の購入
 ② リサイクル商品の購入
 ③ リサイクル商品の購入

生ごみの堆肥化

生ごみの堆肥化
 生ごみの堆肥化
 生ごみのリサイクル
 (堆肥化)
 生ごみの堆肥化
 園芸
 家庭での堆肥化
 ④ 河川敷の堆肥化
 ⑤ 河川敷の堆肥化

